

(国語科)

国語科における基礎学力の育成

～物語文の読み取りを通して～

大阪市立北恩加島小学校 安部悦子 浦井由香 和気美咲 寺西幸一

1 研究主題設定の理由

本校では、平成25年度から2年間、「話すこと・聞くこと」の指導を通して、楽しく意欲的に活動する子どもを育てる研究に取り組んできた。成果としては以下のことがあげられる。

- ・ 「話し方かきくけこ」や基本話型を掲示して活用した。また、ペア、グループ、学級全体というように、場や人数の設定を工夫し話し合う機会を増やしたことで、自分の思いや考えを言える児童が増えた。
- ・ 「聞き方あいうえお」やハンドサインを掲示し活用して、低学年では大事なことを聞く力が伸びてきた。中学年では、話の中心を聞くことにより、話題をつなぐ発言が増えてきた。さらに、高学年では、共通点や相違点を考えながら聞き取ることによって、自分の考えを的確に話す力がついてきている。
- ・ 児童の実態に合わせたワークシートや視覚的に捉えやすい教材、教具を用いることで、話し合いに参加しにくかった児童も、自分の思いや考えを表現できるようになった。

しかし、平成26年度に行われた国語科しんだんのまとめでは、学年間のばらつきはあるものの、相対的に読解力が十分に育っていないことがわかった。また、文章を正確にすらすら読むようにするための自力読みの底上げも課題としてあげられた。

そこで、昨年度は、説明文の読み取りを通して、構成にそって読む力を育む取り組みを行った。「問い」と「答え」の関係、「序論」と「本論」の性格、まとめの分類（頭括・尾括・総括型）の関係に着目して授業を行ったので、説明文の仕組みを理解することができた。また、各学年がそれぞれの目標に沿って、構成や段落相互の関係、写真、挿絵、グラフなどを活用する手だてを工夫し読み取りを深めることができた。

しかしながら、説明文の構造、要点・要旨の把握など読解技能の習得はできたが、論理的に認識し表現するまでには至らなかった。また、初めて出会う文章を正しく読み取って理解する力も十分ではない。そこで、本年度は、研究主題を「国語科における基礎学力の育成～物語文の読み取りを通して～」と設定し、物語文を読み取る際に国語辞典を積極的に活用し語彙力を高め、読書活動のさらなる意識の向上を目指して、国語科における基礎学力を育成する研究を進めていくこととした。

2 研究の視点と進め方について

研究主題に迫るための視点は、次の通りである。

① 学年に応じた読む力をつけるための課題設定と授業展開の工夫

- ・ 全教員が物語文の標準的な授業の流れを共有し、実践することにより教員の指導力を上げ、学年に応じた読む力をつけるための授業づくりをする。
- ・ 児童の興味、関心を生かせるよう、初発の感想をもとに、児童とともに学習課題を設定していく。
- ・ 「読む」→「書く」→「話し合う」の過程を大切に授業展開
- ・ 前時までの学習の流れが振り返られるように、話し合ったことを挿絵とともに教室横に掲示する。

② 語彙力をつけるための取り組み

- ・ 全児童分の国語辞典を用意する。

- ・ 国語辞典を活用した取り組みの計画に沿って、1年生から国語辞典を使って、言葉探しやゲーム、意味調べなどで楽しく言葉に触れることができるようにする。
- ・ 季節に応じた今月の詩を毎月配布し、家庭学習で音読や暗唱をしたり、廊下や図書館に掲示したりする。
- ・ 4～6年生は百人一首に取り組む。

③ 読書 活動の推進

- ・ 図書館開放を増やす。(図書館支援員、地域ボランティア)
- ・ 大正図書館の団体貸出しを利用し、国語科の単元の関連図書を学級文庫や図書館に置き、掲示やブックトークなどで興味を持たせ並行読書ができるようにする。
- ・ 朝の読書タイムを実施する。
- ・ 学校図書館年間指導計画に基づいて、進んで読書したり調べたりする楽しさを味わわせることを目標に学び方の指導や読書指導を行う。
- ・ 図書館に月別のめあてと関連した掲示をする。
- ・ 図書館便りを毎月発行する。
- ・ 読書感想文コンクール、本の帯創作コンクール、読書感想画コンクールへ応募する。
- ・ 図書委員会が紙芝居の読み聞かせをしたり、ブックトークをしたりする。
- ・ 読書ノート(大阪読書推進委員会発行)を活用する。
- ・ 大正図書館に依頼し、お話を実施する。
- ・ 図書以外の資料を収集し活用できるようにする。(新聞・雑誌・パンフレット・リーフレットなど)

3 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

① 学年に応じた読む力をつけるための課題設定と授業展開の工夫

初発の感想を手がかりに課題作りに取り組ませることは、個々の読みを共有化し全体の読みにつなげていく方法として効果があった。また、本文の叙述をもとに読み取ったことをペアやグループで話し合い、全体で発表するという「読む」→「書く」→「話し合う」過程を大切にすることで、一人では読み取れない部分を意見の交流から気付かせることができた。

② 語彙力をつけるための取り組み

1年生から国語辞典を活用して言葉探しやゲームを行ったことで、言葉への関心が高まり、言葉に親しむ機会が増えた。また、季節や学年に応じた様々な詩を音読したり暗唱したりすることで、リズムや響き、言葉の面白さを感じ、読むことが苦手な児童も読むことへの抵抗感がなくなり、楽しく読むことができた。

③ 読書活動の推進

朝読書や図書館開放、図書館の蔵書の充実、図書館の掲示の工夫、大正図書館との連携、読書ノートの活用により、本に親しむ機会が増え、児童の読書量が増えた。

さらに、各単元の始まりとともに関連図書を並行読書することで、学習内容に興味や関心をもつことができ、読書の幅も広がった。

(2) 今後の課題

本文の叙述をもとに読み取り、自分の考えを持つことはできつつあるが、友だちの意見を聞いて比較したり共有したりしながら考えを深めることについては次のような課題が見られる。

- 子どもたちが互いの考えを交流し、そのことにより、考えが深まったと実感できるような活動のあり方をさらに工夫していく。